

フェアトレードタウンは、フェアトレードの普及にくわえて、地域の活性化、貢献も目的としている。札幌では、フェアトレードタウンをめざして、食料自給率の高い北海道ならではの活動がおこなわれている。

フェアトレードフェスタ in さっぽろの開催

フェアトレード北海道は、札幌・北海道でフェアトレードの普及を通じて、持続可能で公正・平和な地球社会の実現を目指す市民の団体である。名前をフェアトレード北海道と決めたのが二〇〇九年一〇月。ヴィジョンとミッションを定めて、まだ組織的な活動を始めて間もない団体である。

フェアトレード北海道の誕生に先立ち、札幌では二〇〇三年からフェアトレードの普及を願う市民によって、「フェアトレードフェスタ in さっぽろ」が開催されて来た。札幌・北海道の市民がフェアトレードに楽しみながら親しむ、年に一度のお祭りである。二〇〇三年から二〇〇六年までは廃校となった小学校や、屋内のイベントスペースを借りての開催だったが、二〇〇七年からは札幌の中心街で多くの市民が集う大通公園での野外開催となり、毎年六月中旬から下旬の週末、土日の二日間おこなわれている。

この運営にかかわった人たちが、年に一回の単発のイベントだけでなく、北海道の特色を生かした数多くある。これらの活動を広く紹介し、さらに育てること。第二には、北海道だけでなく、全国各地の草の根レベルでフェアトレードに取り組んでいるフェアトレード団体の活動を紹介し、そのネットワークを作ること。こうした趣旨に共鳴して、フェアトレードフェスタ in さっぽろには、全国から出展、商品紹介をおこなう団体が集う。

また、3・11をきっかけにして二〇一一年から新しいブースが生まれた。復興支援ブースである。以来、被災地のまちづくりを応援するグッズがフェアトレードフェスタに仲間入りした。さらに、就労応援ブース、北海道の材料にこだわる北海道ブースも設けられた。再生可能・自然エネルギーの発展もおこなわれている。

北海道がリードする取り組み

北海道は、日本の食糧基地ともいわれる。全国の食料自給率はカロリーベースで四〇パーセントを割っているのに対し、北海道では二〇〇パーセントを超えている。フェアトレードの核心が生産者との関係性にあるとすれば、北海道自身がその生産者を農畜産業関連分野に多く抱えている。フェアトレードの原則を、これらの生産者に適用して、生産者と消費者がより顔の見える関係で結びあうことができないか？ また、海外の生産者が生んだフェアトレード材料と北海道の原料を使って、新しいフェアトレードが展開できないか？ 夢は広がり、その一部は実現しつつある。例えば、フェアトレードのカカオ豆と、北海道産の乳製品と合わせたミルクチョコレート。当初は、技術的な問題から不可能と

フェアトレードの普及を毎年でおこなってゆくと、フェアトレード北海道を設立した。フェアトレードフェスタの開催は、フェアトレード北海道がかかわる重要な事業のひとつである。

ふたつのポリシー

国内最大規模のフェアトレードの野外イベントといわれるフェアトレードフェスタ in さっぽろには、開始当初から大切にしているポリシーがある。第一に、途上国の厳しい条件におかれた生産者と結びついて、コツコツと地道にフェアトレードを進めている活動を大切にすること。東チモールマウベシ郡のコーヒー生産者と提携しているほっかいどうピーストレード、グアテマラの先住民族のコーヒー生産者と提携しているマヤコーヒー、そして、インドのビーズ生産者から仕入れた材料を使って、福祉作業所の人びとと提携して独自のフェアトレード・アクセサリーを製作している SOLOS など、札幌・北海道には、地元で拠点を置いて、草の根フェアトレードを展開している団体が

も思われたこの夢のチョコレートは、現在カカオラボ・ホッカイドウで製造・販売している。また、北星フェアトレードでは、カフェで提供するクッキー等を道産材料とフェアトレード材料で手作りして提供し、好評をえている。

未来に向かって

フェアトレードというモノを介した取引によって、わたしたちはそのモノの向こうにいるヒトとの関係を問い直し、それをより公正なものに変えようとする。公正という価値の実現が求められるのは、地域においても、海外の生産者との関係においても同様である。安価な商品を生産するために、あるいは快適・安全な生活を実現するために誰かが犠牲を強いられている関係は決して公正な、フェアな関係とはいえない。

エネルギー、食料、衣料品、といったわたしたちの日々の暮らしを支えるモノを作り出す過程でそこにかかわるヒトが犠牲にされることをわたしたちは望まない。暮らしのあらゆる側面を注意深く見直し、そこに人間らしい暮らしのわかち合いが実現されるような、暮らしのあり方、作り方、買い物の方を考えて、実現させてゆきたいと思う。

心のなかの国境線を引き直し、ローカルな場においても、グローバルな関係においても、人間らしい暮らしがわかち合える関係を作り出すこと、それがわたしたちの活動の目標である。そして、地域と地球を結んで公正な関係を作り出す活動の一環として、フェアトレードタウンを北海道に実現させたいと思う。



アフリカンドラムで会場がひとつになる。フェアトレードフェスタ in さっぽろ2013



道産カボチャとフェアトレード材料を使ったタルト



北星フェアトレードの学生と地元の生産者さん



フェアトレードフェスタ。草の根フェアトレードブース

さをり織りワークショップ



フェアトレードフェスタ in さっぽろ2008会場

